

## 日本における肺がんの現状

2023年の日本で最も多い死因は「がん」（38.2万人）で、全体の約4人に1人が「がん」で亡くなっています。中でも肺がんは、かかる人の多さでは2位ですが、亡くなる人の数では1位です。がんによる死亡の約5人に1人が肺がんです。

### 肺がんの症状

肺がんの初期には、特有の症状がほとんどなく、気づかないうちに進行してしまうケースが少なくありません。そのため、健診などで偶然発見されることもよくあります。また、症状が出ても風邪や他の呼吸器疾患と似ているため、自己判断が難しいのが特徴です。

代表的な症状としては、しつこい咳、痰、血痰、息苦しさ、胸の痛み、原因不明の発熱などがあります。病状が進行すると、骨や脳など他の臓器へ転移することもあります。

### 肺がんを早期発見しよう！

肺がんは、早期の「ステージⅠ」で発見されるケースが43.1%ありますが、一方で、すでに進行した「ステージⅣ」で見つかるケースも28.9%にのぼります。このように、必ずしも早期に発見されるとは限らず、進行した状態で見つかることも少なくありません。そのため、肺がんでは早期発見・早期治療が非常に重要です。

## 市立ひらかた病院で

### 肺がんCT検診を受けるメリット

一般的に肺がん検診では少量の被ばくで行える胸部X線検査（レントゲン）が広く用いられています。一方、肺がんの早期発見にはCTが有効とされ、レントゲンや他の検査と比較して肺がんの検出能力に優れています。



### 当院のCT装置

当院では、低線量の肺がんCT検診を実施しており、放射線量は通常診療の約9分の1に抑えています。さらに、最新のAI（人工知能）による画像再構成技術を活用し、被ばくを低減しながらも鮮明な診断画像を提供しています。また、AI搭載の読影モニターによる肺結節検出機能と、経験豊富な放射線診断専門医による読影を組み合わせることで、精度の高い肺がん検診を実現しています。



### AI搭載画像再構成技術

